

タイトル：『ファニーたい焼きトムニー
グラタン』

【シーン一】たい焼きトムの朝

（東京都内、小さなたい焼き屋『たい焼きトム』。店の前には「本日限定！グラタンたい焼き」のポスターがデカデカと貼られている）

（店内、朝。トムがハイテンションで仕込み中。大きなボウルにグラタンを豪快にかき混ぜる）

トム「オーケー！今日のスペシャルたい焼きは、：グラタン！まるやかクリーミ―！こんな絶対ウマいに決まってる！」

（魚住が店の奥から顔を出す。すでに嫌な予感がしている）

魚住「：ちょっと待ってください、トムさん。グラタンですよね？え、たい焼きの中に？！」

トム「イエス！ポテト！チーズ！ホワイトソース！そして、カリッと焼けたたい焼きの皮！ウマイ！絶対ウマイ！」

魚住「：まあ、食べたら美味しいのかもしれませんけど：なんでグラタンなんですか？」

トム「なぜ？それはね、昨日の夜、夢に出てきたんだよ。ホワイトソースが波のように押し寄せて、チーズがキラキラ輝いて：そして、たい焼きが！『私にグラタンを詰めてくれ！』って言った！」

魚住「（呆れ顔）たい焼きがしゃべる夢って：！」

トム「それを聞いたら作るしかないだ
ろ？！よし、オープンの準備だ！」

（トム、ノリノリで暖簾を出す。魚住、
心配そうに見守る）

（開店準備シーンを追加）

（トム、たい焼きの型を準備しながら歌
い始める）

トム「グ〜ラタン！たい焼き！みんなで
ハッピー！」

（魚住、ため息をつきながらも、焼き機
のチェックをする）

魚住「…まあ、今日も始まりますね。」

【シーン〜】開店と最初の客たち

（『たい焼きトム』開店。通りを歩く人たちがポスターを見て、立ち止まる）

サラリーマン（30代）「グラタンたい焼き…？」

女子高生「え、やばくない？美味しいの？」

女子高生「インスタ映えはするかも…？」

（最初の客、近所の主婦・松本さん（40代）が興味津々で入店）

（松本さん、焼きたてのグラタンたい焼きを手に取り、一口かじる。中から熱々のホワイトソースがとろりと流れ出す）

松本さん「うわっ…！熱っ、でも…うん！なにこれ、すごい！」

（ホワイトソースが舌の上でふんわりと広がる。バターのコクとほんのり甘い味わい。とろけるチーズが糸を引き、ホクホクのじゃがいもがぎっしり詰まっている）

松本さん「カリッと香ばしい皮に、このクリーミーなソース…！ポテトの甘みとベーコンの旨味が…最高じゃない！」

（店内にいた他の客たちも興味津々で注文し始める）

（大学生グループがたい焼きを割ると、中からチーズが伸びる）

大学生「え、やば！めっちゃ伸びる！」

大学生「見て見て、チーズがすごい！やばいやばい、動画撮ろ！」

（女子高生たちが食べると、ホワイトソースのなめらかさに驚く）

女子高生「なにこれ、シチューみたい
にトロトロ！」

女子高生「めっちゃクリーミー…これ
は革命かも！」

（次々と客たちが買い求め、SNSにアッ
プする）

（TwitterやInstagramにアップされるグ
ラタンたい焼きの画像、コメントが流れ
る）

ツイート「#グラタンたい焼き #想像以
上にウマイ」

ツイート「新感覚スイーツ!? たい焼
きの概念を覆す！」

（店の前に徐々に行列ができる）

【シーン3】メディア取材と大混雑

（店の前にカメラを構えたレポーターが
登場）

レポーター（興奮気味）「今話題のたい
焼き屋『たい焼きトム』に来ています！
驚きのメニューは…グラタンたい焼き！
行列ができています！」

（レポーターがトムにインタビュー）

レポーター「トムさん、この斬新なアイ
デアはどこから？」

トム（満面の笑み）「夢デス！グラタン
が語りかけてきた！作るしかナカッタ！」

（魚住、横で苦笑い）

（レポーターも試食する）

レポーター「では、いただきます…（パ
クリ）…！！！！これは…！！」

（カメラがスローモーションでレポーターの口元を映す。ホワイトソースがとりと流れ出し、チーズが伸びる）

レポーター「カリカリの皮とトロトロの中身が絶妙です！まるでグラタンがそのまま包まれているかのよう……！！」

（SNSでの反響がさらに加速）

ツイート③「テレビでも紹介された！絶対食べる！」

（店の前にはさらに長蛇の列ができる）

【シーン④】売り切れ寸前の大混乱

（店内。大量に作ったグラタンたい焼きも、どんどん売れていく）

魚住（焦り気味）「トムさん！もう生地が残りわずかです！」

トム（汗をかきながら）「ウワーオ！フ
アニー！こんなに売れるとは！」

（最後のたい焼きが焼き上がり、店内が
拍手に包まれる）

客たち「買ってよかったー！」「これは
革命だ！」

（売り切れを告げると、客たちは惜しみ
つつも満足そうに帰る）

魚住（ぐったり）「…すごい一日でした
ね。」

トム（ニヤリ）「ファニーたい焼き、ま
だまだ続くヨ！」

【エピローグ】

（閉店間際、店内に怪しげな男が入ってくる。隣町のたい焼き屋『たい焼き福丸』の店主）

たい焼き福丸店主「…どれ、話題のグラタンたい焼き、試させてもらうか。」

（たい焼きを一口食べると、衝撃を受けた表情）

たい焼き福丸店主「こ、これは…！濃厚すぎる！斬新すぎて…真似できない！！」

（震える手でたい焼きを見つめ、そっと店を出ていく）

トム「ハハハ！ファニー！たい焼きは唯一無二だよ！」

【エピローグ】

（閉店後、余ったグラタンを二人で黙々と食べる）

トム「うーん…うまいな。もしかして…
グラタン屋を開業しようかな？」

（魚住、箸を止めてじっとトムを見る）

魚住「…ダメです。」

（即答。一喝する魚住。トム、大爆笑）

（画面フェードアウト。エンド！）

• シーン1（約10～15分）

トムがグラタンたい焼きを発案し、魚住が困惑する。開店準備。

• シーン2（約15～20分）

開店と最初の客たちのリアクションを細かく描写。

- シーン 3 (約 20 ~ 25 分)

メディア取材によるブームの拡大、SNS
での拡散。

- シーン 4 (約 20 分)

売り切れ間際の混乱と大成功。

- エピローグ 1 (約 5 分)

隣町のたい焼き屋のスパイが来店、驚嘆
して撤退。

- エピローグ 2 (約 5 分)

余ったグラタンを食べながらの締めくく
り。

-